

第36回電気通信普及財団賞

テレコム社会科学部門 総評

第36回テレコム社会科学賞、テレコム社会科学学生賞に多数のご応募をいただき有難うございました。

テレコム社会科学賞は今回、各種学会等への働きかけや募集広告の効果もあり、過去3番目となる40件という多数の応募をいただきました。そのうち7点が英文論文でした。また、ここ数年、減少傾向にあった学生賞への応募も19件と大きく増加しました。そのうち2点が英文論文でした。ただし、応募作品はみな大学院生による研究でした。学部学生のフレッシュな視点からの意欲的な研究成果の応募が待たれるところです。

今回の応募論文の内容をみると、研究分野は経済学、社会学、法学など多岐にわたっています。また、研究の対象をみても、インターネット、AI、ソーシャルメディアなど情報通信にかかわるさまざまな問題が取り上げられています。

さて、本論文賞では受賞作品の選定にあたり、予備審査を経た約2割の作品について厳正な最終選考の結果、今回は入賞1件、奨励賞4件を決定いたしました。受賞した5作品はいずれも単著であり、その中で最高点を得たのは、松下慶太氏の著書『モバイルメディア時代の働き方』（勁草書房、2019年）でした。同書は新型コロナウイルス感染症の感染拡大によりテレワークが日常化する前に刊行されましたが、時間や場所にとらわれず自分の価値観に従って働くことの可能性を追求しており、現在の状況を一部先取りした新規性のある優れた作品です。

また、その他の受賞作品については、今後の活躍への期待を込めて奨励賞といたしましたが、いずれも長年にわたる研究やフィールド調査をもとにその成果をまとめた作品で、全体として構成がしっかりとしており、質的内容がかなり高度で説得力のある作品でした。

テレコム社会科学学生賞は、予備審査を経た約35%に相当する作品について厳正な最終選考の結果、入賞1件、佳作2件となりました。大学院生だけでなく、学部生による新規性、論理性などの面で優れた作品が待たれます。

■テレコム社会科学賞

◆発表形態

著書等	学会誌、雑誌等	書き下ろし (学位論文含む)
21点	17点	2点

◆著者の所属

大学	テレコム企業 (研究所含む)	メーカー企業 (研究所含む)	大学+ メーカー企業 (研究所含む)	その他
30点	2点	1点	1点	6点

◆言語

和文	英文
33点	7点

◆分野別

社会	経済	経営	政策	法律
21点	4点	5点	—	10点

■テレコム社会科学学生賞

◆発表形態

学会誌、雑誌等	書き下ろし (学位論文を含む)
14点	5点

◆著者の所属

大学院生 (修士課程)	大学院生 (博士課程)	外国人研究生
1点	17点	1点

◆分野別

社会	経済	経営	政策	法律
12点	2点	2点	3点	—